

## は し が き

本書のねらいは次の4点です。

1. 第一義的には、英語の基礎的ライティング能力を養成すること。
2. モデル英文を付け、その音声CDを作成することにより、リーディング教材、リスニング教材の側面も併せ持つ、総合英語教材としての性格を、特徴として有すること。
3. 各ユニットが、トピックと広義の文構造（文法、語法を含む）の新たな組み合わせを具現した、テキストとして統一性の高いものであること。それにより、各ユニットの到達目標を明確にし、いわゆる絞りのきいた授業、効率的な学習を可能にすること。
4. エクササイズと解説をなるべく有機的に関連付け、学習者が利用しやすいレイアウトを心がけること。

以下、上記のねらいについてそれぞれ説明します。

### 1 について

日本の大学生の一般的状況としては、中学高校で、ライティングの指導があまりなされないままの状態です。いわゆる受験のための文法、語法、熟語などは断片的に知ってはいますが、それらは、志望校に合格するために当面の課題であった、入試でよく出される、カッコ穴埋めや、並べ替えの文法、語法、熟語問題に対処するための知識であり、発信とか実際の活用というレベルとはあまり関連性のないもの、というのが大方の実情ではないかと考えられます。

そこで、中学高校で習ってきた構文知識を基礎にして、身近な話題を中心として、実際に使える基本的なライティング能力の養成に役立つテキストを作る、というのが本書を作成するうえでの大きなねらいとなっています。

### 2 について

本書を作成するにあたって最も工夫を要したところは、モデル英文の執筆です。これはnative speakerと念入りな検討を交えながら作成したオリジナル英文です。このモデル英文作成にあたっては以下の点に留意しました。

- a. 学習者にとって文字通り、ライティングのためのモデルとするに足る内容と形式を備えていること。学習者が暗誦するに足る、模範的英文作成を心がける。トピックの選択については、大学生にとって身近なもの、全体的には、現代日本人の（特に若者の）ものの考え方・感じ方と現代の日本事情の一端を外に向けて発信する、という内容を中心とする。

- b. モデル英文のバラエティを持たせるために、3種類の異なったスタイルの英文（三人称のエッセイ、一人称の物語的文章、対話文）を用いる。
- c. モデル英文を録音した音声CDを付属することで、リスニング用英文としても活用できるようにする。
- d. 学習者に、単なる読み流し、聞き流しをさせず、モデル英文を消化吸収させるために、いわゆる‘復文’の手法を一部取り入れる。即ち、モデル英文のkey clausesの日本語訳例をテキストで与えておき、「オリジナル英文 訳文 オリジナル英文」の演習を授業担当の先生、または学習者が必要に応じて適宜行えるようにする。

### 3 について

言うまでもなく、ライティングには「何について書くか」というトピック性（例：学生生活、高齢化社会、日本人のものの考え方、etc.）の問題と、「どういう語句を使ってどういう構文で書くか」という、表現語彙や文構造的テーマ（例：口語体か文語体などの文体的な特徴、仮主語もしくは具体主語（名詞句）を用いた構文、無生物主語構文、etc.）の問題があります。学ぶ側にとっての学習効率という観点からはこの両者がうまくかみ合っていることが望ましいことことは自明のことであろうと思います。そこで各ユニットで学習の焦点となる文法・構文上のテーマを設定しました（例：Unit 3 仮定法）。

### 4 について

構文に関してのkey clausesについては、学習者の参考になるよう、文法・構文的‘価値判断’を「表現のポイント」という形で付けました。「表現のポイント」は学習者が極力読んでくれるように、簡略で平明な記述を心がけたつもりです。文法語法解説はまとめて書いてしまうといわゆる解説のための解説になってしまい、読者にとってプレッシャーになりがちですので、小出しにして、演習問題と一体化するレイアウトにしました。

学生の皆さんが、このテキストの学習を通して、リスニング、リーディングを含めた英語の総合力が上がり、それによって作文・会話などの、英語の発信力が向上すれば、筆者の意図は達せられたといえます。最後にこのテキストの英文全体をチェックしていただき、数々の有益なアドバイス、コメントを頂いたJames Hill氏に心から感謝の意を表します。

2002年1月

富岡 龍明

## 本書の利用の仕方

1. まず付録CDで当該ユニットのモデル英文を、本文を見ずに数回繰り返して聞く。
2. 次に、モデル英文を数回、音読する（黙読ではなく音読することが大切）。その際 key clauses になっているところは特に注意を払って読む。
3. わからない単語・語句などの意味、用法を辞書で確認する。
4. モデル英文がだいたい頭に入ったら（少なくともkey clausesが口をついて出てくるまでになっている必要がある）(KEY CLAUSES)の演習をやってみる。ここでは訳例として与えられている日本文から元の英文を組み立ててみる作業を行なう。この作業を通じて、一層深くkey clausesが習得できる。
5. 語彙の確認作業として(WORDS & PHRASES)をやってみる。
6. (EXERCISES)の和文英訳をやってみる。ある程度ヒントが与えられているので、モデル英文を参照しながら、自分なりの英文を組み立ててみる。なるべく辞書などに頼らず書いてみること。
7. ゆとりがあれば**LET'S TRY!**をやってみる。

以上はあくまで本書の使い方の一例です。実際にはこのテキストを使って授業される先生の指示に従ってください。

### 付属CDについて

巻末に付属しているCDには、本書のモデル英文が全て収録されています。なお、CDの頭出し番号は、各ユニットの番号に対応しています。